

# 平均余命の地域差を表す社会・経済指標と寿命リスク評価

井川孝之<sup>+</sup>

## 概要

本格的な長寿・高齢社会が到来しつつある中、死亡率の異質性を生じさせる変動要因やその影響の大きさについて把握し、将来推計やリスク評価に反映できる方法を開発する必要性が増してきている。本稿では、都道府県別死亡率による平均余命と国勢調査等の各種公的調査データに基づき、構造方程式モデリングによる方法と変数の逐次選択（ステップワイズ）を施した重回帰分析による方法を比較・検討しながら、平均余命の地域差を表す社会・経済指標を策定する。また、異なる年齢の平均余命に対し指標を構成する要因がどのように変わるか、また、指標を構成する要因が時間の経過に対し頑健であるか、検証する。

次に、平均余命の地域差を表す社会・経済指標を構成するマクロ経済指標の変動により、寿命リスクがどのように変動するか、マクロ経済指標の時系列モデルを用いながら、シミュレーションにより確認する。経済変動と寿命変動の関係と保険や年金負債への影響を踏まえ、負債のリスク相関の前提や公的年金の財政検証の前提について考察する。

## キーワード

死亡率，異質性，都道府県別生命表，平均余命，リスク相関

---

<sup>+</sup> PwC あらた有限責任監査法人

本稿の内容は、著者の所属法人の見解を述べるものではなく、著者個人の意見によるものである。